

介護不安に関する意識
問36 家族の介護についての不安

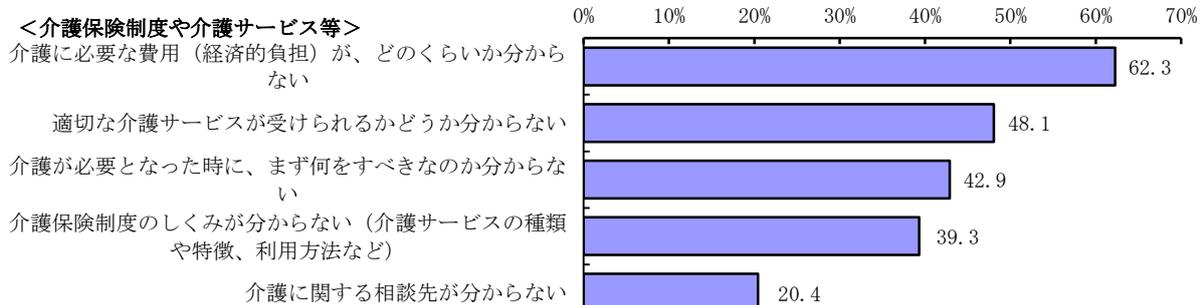
あなたが、家族の介護について不安に感じていることがあれば、次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

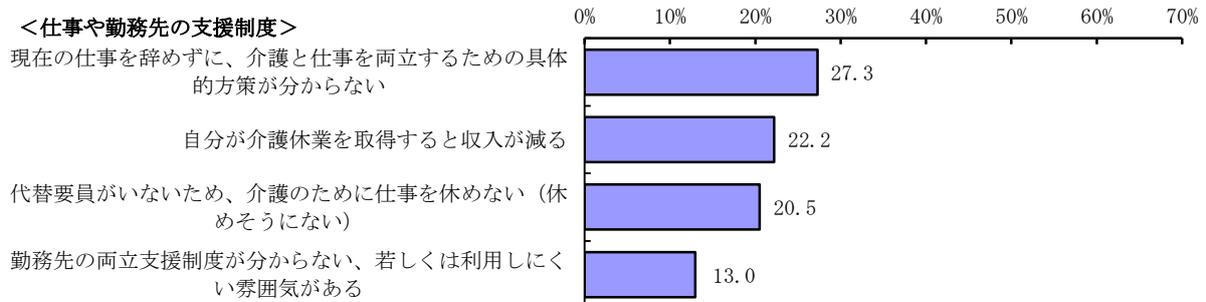
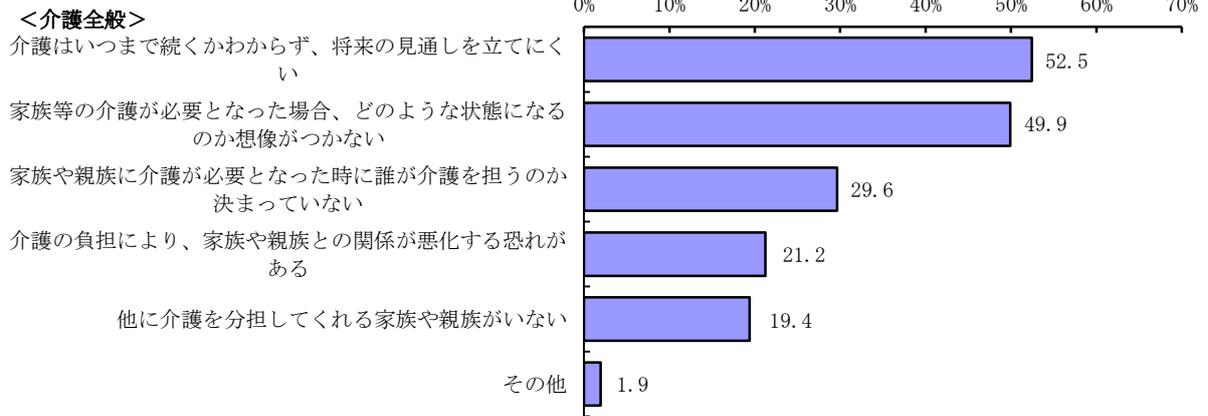
	(複数回答)	(%)
<介護保険制度や介護サービス等に関すること>		
1 介護が必要となった時に、まず何をすべきなのか分からない	42.9	9
2 介護に必要な費用(経済的負担)が、どのくらいか分からない	62.3	3
3 介護保険制度のしくみが分からない(介護サービスの種類や特徴、利用方法など)	39.3	3
4 適切な介護サービスが受けられるかどうか分からない	48.1	1
5 介護に関する相談先が分からない	20.4	4
<介護全般に関すること>		
6 他に介護を分担してくれる家族や親族がない	19.4	4
7 家族や親族に介護が必要となった時に誰が介護を担うのか決まっていない	29.6	6
8 介護の負担により、家族や親族との関係が悪化する恐れがある	21.2	2
9 介護はいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい	52.5	5
10 家族等の介護が必要となった場合、どのような状態になるのか想像がつかない	49.9	9
11 その他(具体的に)	1.9	9
※ お仕事をされている方は以下の選択肢からもお選びください		
<仕事や勤務先の支援制度に関すること>		
12 現在の仕事を辞めずに、介護と仕事を両立するための具体的方策が分からない	27.3	3
13 代替要員がないため、介護のために仕事を休めない(休めそうにない)	20.5	5
14 勤務先の両立支援制度が分からない、若しくは利用しにくい雰囲気がある	13.0	0
15 自分が介護休業を取得すると収入が減る	22.2	2

家族の介護について不安に感じていることを聞いたところ、
<介護保険制度や介護サービス等に関すること>では、「介護に必要な費用(経済的負担)が、どのくらいか分からない」と答えた人の割合(62.3%)が最も多く、次いで「適切な介護サービスが受けられるかどうか分からない」(48.1%)、「介護が必要となった時に、まず何をすべきなのか分からない」(42.9%)などとなっており、

<介護全般に関すること>では、「介護はいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい」と答えた人の割合(52.5%)が最も多く、次いで「家族等の介護が必要となった場合、どのような状態になるのか想像がつかない」(49.9%)などとなっている。

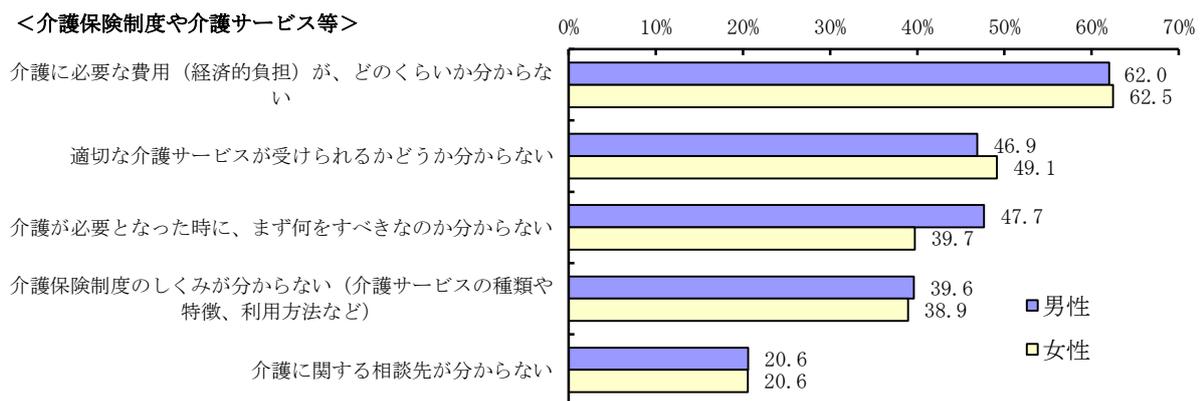
また、仕事をしている人に、あわせて<仕事や勤務先の支援制度に関すること>について聞いたところ、「現在の仕事を辞めずに、介護と仕事を両立するための具体的方策が分からない」と答えた人の割合(27.3%)が最も多く、次いで「自分が介護休業を取得すると収入が減る」(22.2%)などとなっている。



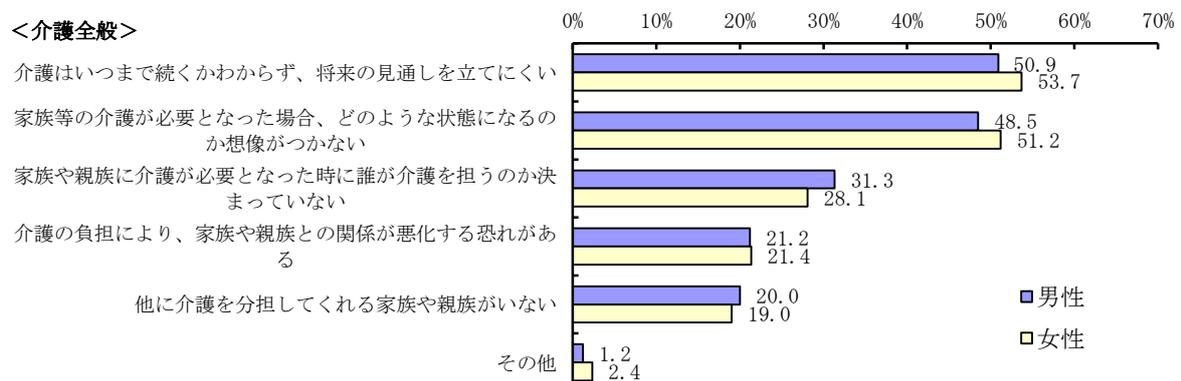


【性別】

性別でみると、
<介護保険制度や介護サービス等に関すること>
 男女とも、「介護に必要な費用（経済的負担）が、どのくらい分からない」と答えた人の割合が最も多くなっているが、次に多いのが、男性では「介護が必要となった時に、まず何をすべきなのか分からない」、女性では、「適切な介護サービスが受けられるかどうか分からない」となっている。



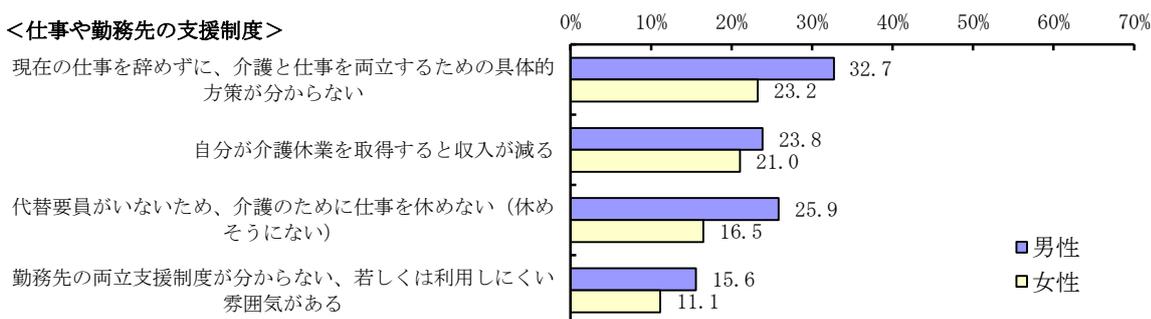
<介護全般に関すること>
 男女とも、「介護はいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい」が最も多く、次いで「家族等の介護が必要となった場合、どのような状態になるのか想像がつかない」の順となっている。



<仕事や勤務先の支援制度に関すること>

男女とも、「現在の仕事を辞めずに、介護と仕事を両立するための具体的方策が分からない」が最も多くなっているが、次に多いのが、男性では「代替要員がいないため、介護のために仕事を休めない（休めそうにない）」、女性では、「自分が介護休業を取得すると収入が減る」となっている。

<仕事や勤務先の支援制度>



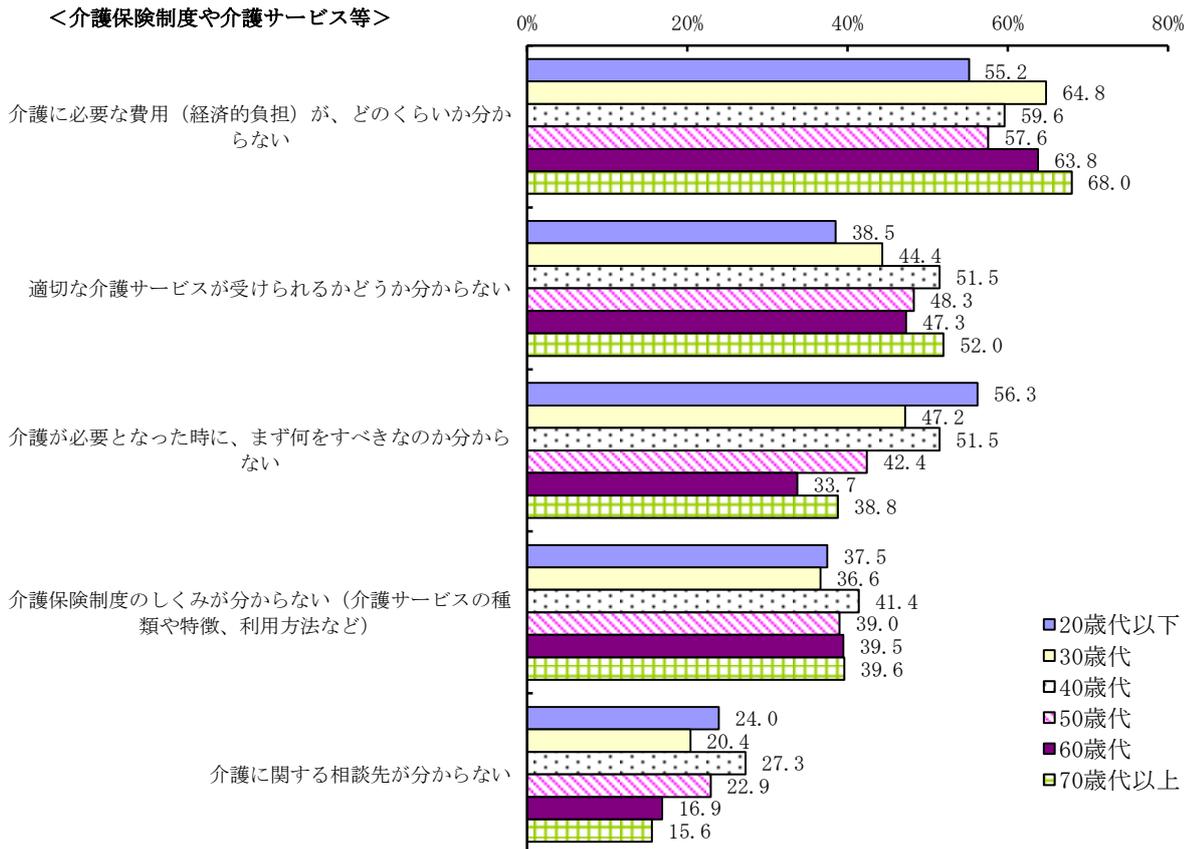
【年齢別】

<介護保険制度や介護サービス等に関すること>

年齢別でみると、30歳代以上の全ての年齢層で、「介護に必要な費用（経済的負担）が、どのくらい分からない」と答えた人の割合が最も多くなっており、次いで多いのは、50歳代以上の年齢層では、「適切な介護サービスが受けられるかどうか分からない」となっているが、40歳代では、「適切な介護サービスが受けられるかどうか分からない」と「介護が必要となった時に、まず何をすべきなのか分からない」が同じ割合で、30歳代では「介護が必要となった時に、まず何をすべきなのか分からない」の方が多くなっている。

20歳代以下では、「介護が必要となった時に、まず何をすべきなのか分からない」が最も多く、次いで、「介護に必要な費用（経済的負担）が、どのくらい分からない」「適切な介護サービスが受けられるかどうか分からない」などの順になっている。

<介護保険制度や介護サービス等>

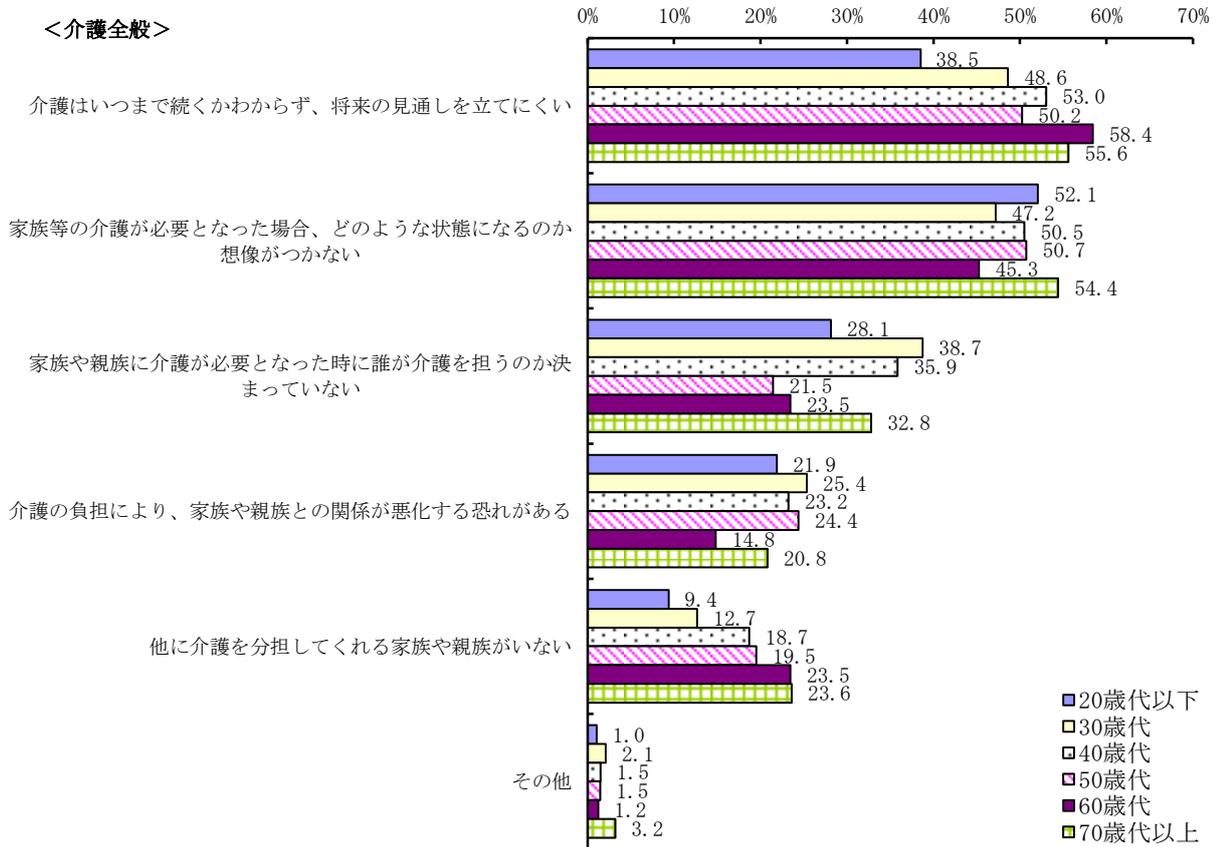


<介護全般に関すること>

年齢別にみると、30歳代から40歳代、60歳代以上では「介護はいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい」、20歳代以下及び50歳代では「家族等の介護が必要となった場合、どのような状態になるのか想像がつかない」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、年齢層が高くなるにつれ、「他に介護を分担してくれる家族や親族がいない」の割合が多くなっている。

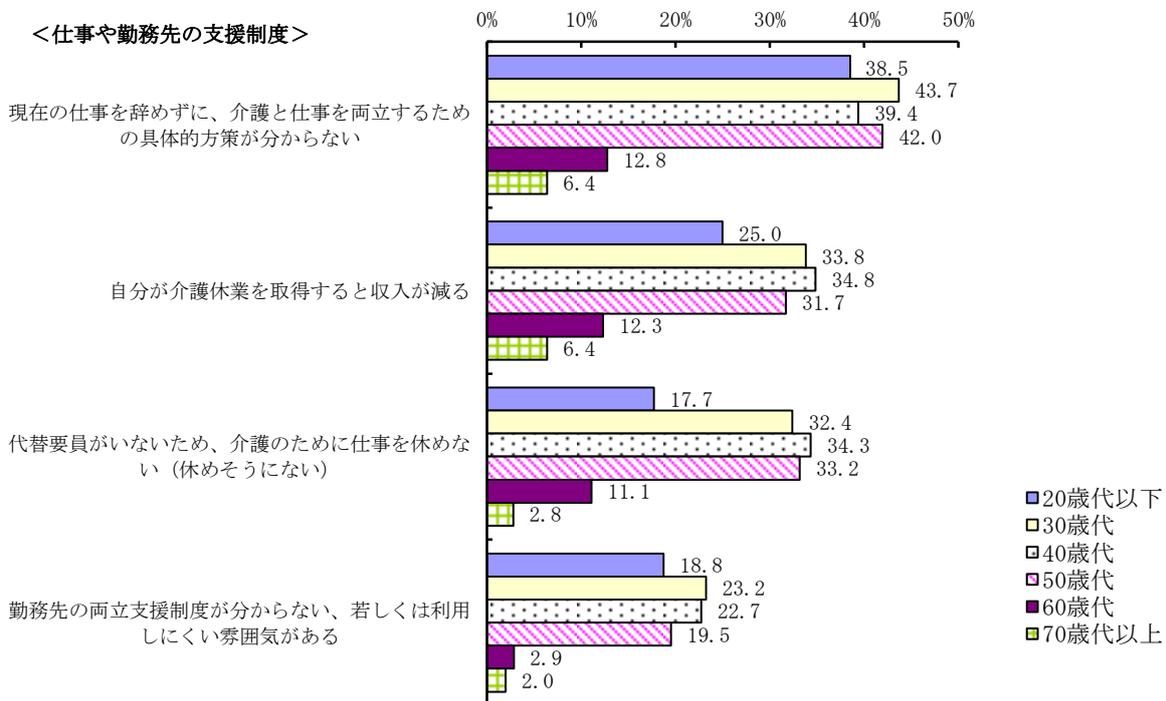
<介護全般>



<仕事や勤務先の支援制度に関すること>

全年齢層で、「現在の仕事を辞めずに、介護と仕事を両立するための具体的方策が分からない」が最も多くなっている。次いで、50歳代以外では「自分が介護休業を取得すると収入が減る」が多く、50歳代では「代替要員がいないため、介護のために仕事を休めない」が多くなっている。

<仕事や勤務先の支援制度>



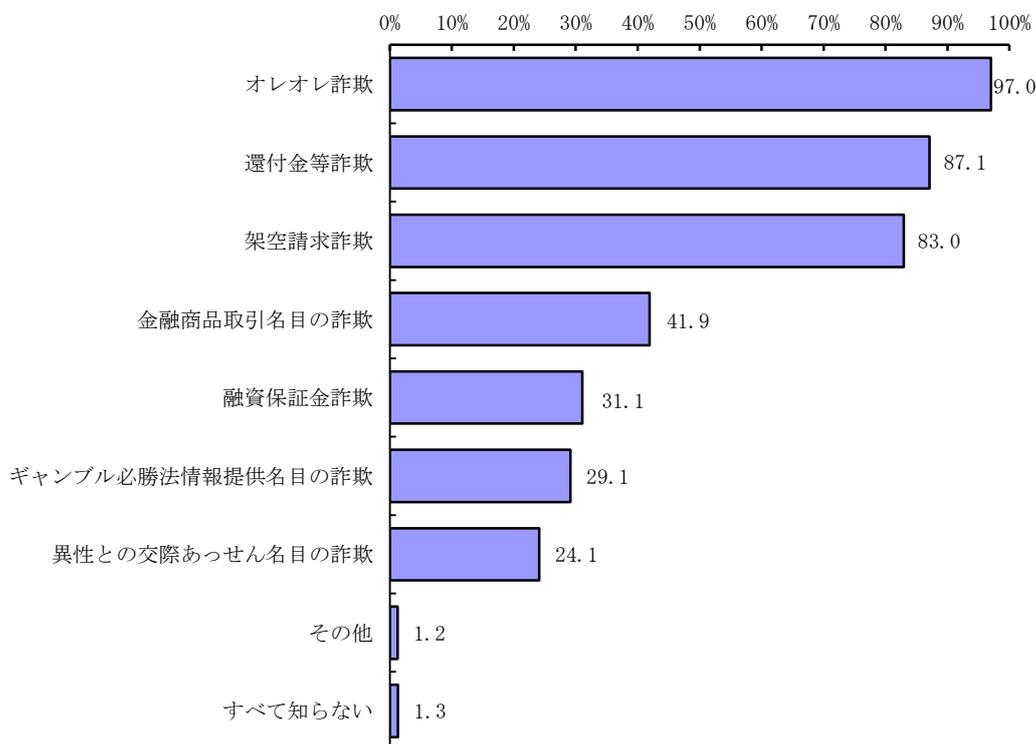
特殊詐欺に関する意識

問37 知っている特殊詐欺の手口

現在、様々な手口の特殊詐欺が現れています。あなたは、特殊詐欺の手口を知っていますか。あなたが知っているものを次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

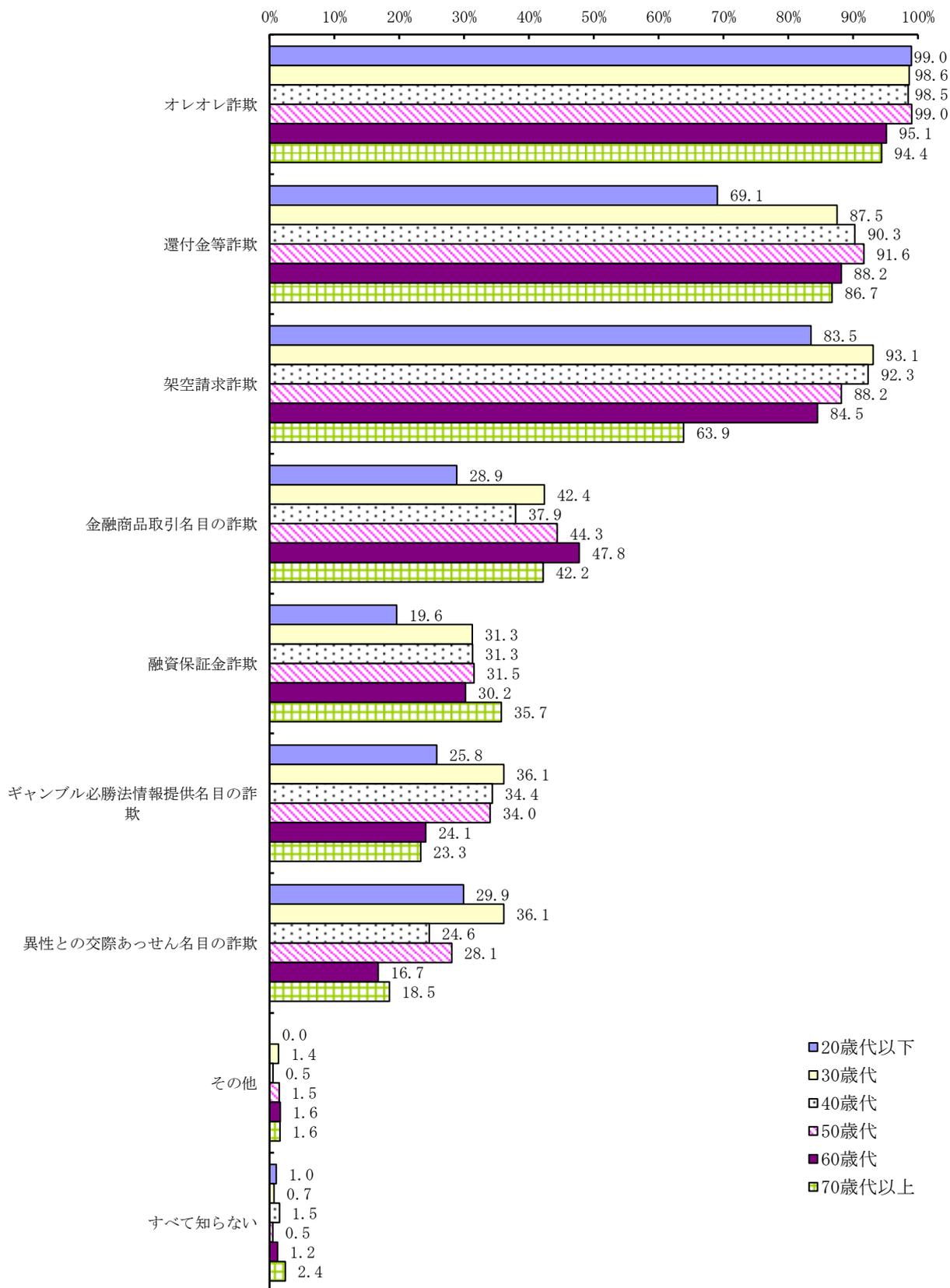
	(複数回答)	(%)
1 オレオレ詐欺（息子や孫などをかたり、「不倫相手を妊娠させて示談金が必要。」「会社のお金を使い込んだのがばれた。」等と言って現金を要求する手口）	97.0	0
2 還付金等詐欺（医療費の払い戻し等の名目で、ATMでの手続きが必要等言って、ATMを操作させ、現金を振り込ませる手口）	87.1	1
3 架空請求詐欺（有料サイトの利用料が未納である等と言って、架空の事実を口実として現金を要求する手口）	83.0	0
4 金融商品取引名目の詐欺（架空又はほとんど価値のない有価証券等を紹介し、必ず利益が得られると言って、購入料などの名目で現金を要求する手口）	41.9	9
5 融資保証金詐欺（好条件で融資をするので保証金が必要などと言って、現金を要求する手口）	31.1	1
6 ギャンブル必勝法情報提供名目の詐欺（ギャンブルの必勝法を教えると持ちかけ、情報提供料などの名目で現金を要求する手口）	29.1	1
7 異性との交際あっせん名目の詐欺（異性との交際を持ちかけ、会員登録料などの名目で現金を要求する手口）	24.1	1
8 その他（具体的に)	1.2	
9 すべて知らない	1.3	

知っている特殊詐欺の手口を聞いたところ、「オレオレ詐欺」と答えた人の割合(97.0%)が最も多く、「還付金等詐欺」(87.1%)、「架空請求詐欺」(83.0%)とあわせた3つの手口については、それぞれ8割以上の人を知っていると答えている。次いで「金融商品取引名目の詐欺」(41.9%)、「融資保証金詐欺」(31.1%)などの順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「オレオレ詐欺」と答えた人の割合が最も多くなっている。40歳代以下の年齢層では、「オレオレ詐欺」「架空請求詐欺」「還付金等詐欺」の順に知っていると言った人の割合が多いが、20歳代以下では、「還付金等詐欺」の割合が69.1%と他の年齢層に比べて少ない。また、50歳代以上では「オレオレ詐欺」「還付金等詐欺」「架空請求詐欺」の順になっているが、70歳代以上では「架空請求詐欺」の割合が63.9%と他の年齢層に比べて少ない。



問37-1 特殊詐欺の被害防止対策

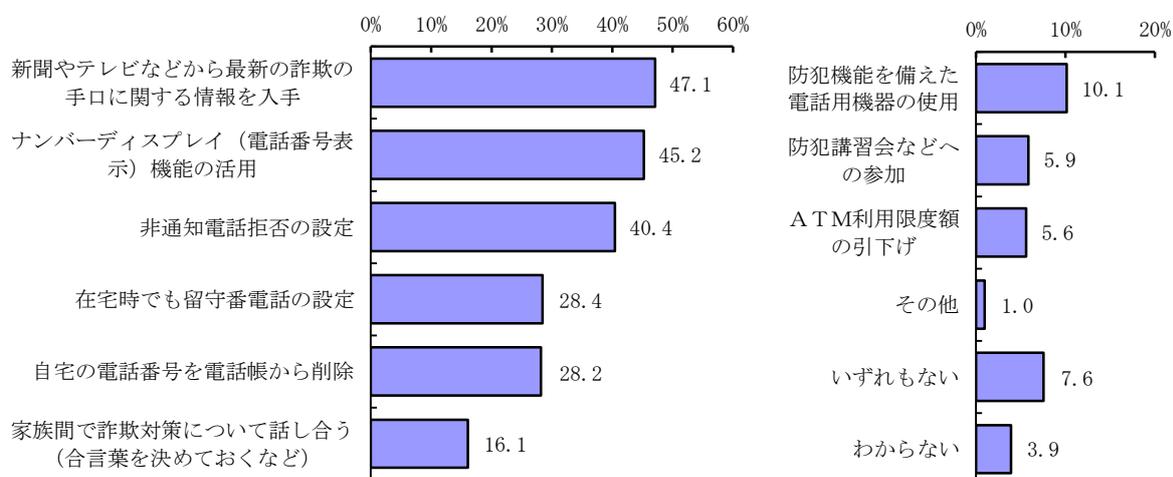
あなた自身やご家族が、被害防止対策で行ってみたいもの、あるいは既に行っているものを次の中から**いくつでも選んで**番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 ナンバーディスプレイ（電話番号表示）機能の活用	45.2	2
2 新聞やテレビなどから最新の詐欺の手口に関する情報を入手	47.1	1
3 非通知電話拒否の設定	40.4	4
4 在宅時でも留守番電話の設定	28.4	4
5 自宅の電話番号を電話帳から削除	28.2	2
6 家族間で詐欺対策について話し合う（合言葉を決めておくなど）	16.1	1
7 防犯機能（通話前に警告メッセージが流れ、通話内容を録音する機能や迷惑電話をブロックする機能）を備えた電話用機器の使用	10.1	1
8 ATM利用限度額の引下げ	5.6	6
9 防犯講習会などへの参加	5.9	9
10 その他（具体的に)	1.0	0
11 いずれもない	7.6	6

(回答者=73人) (複数回答) (%)

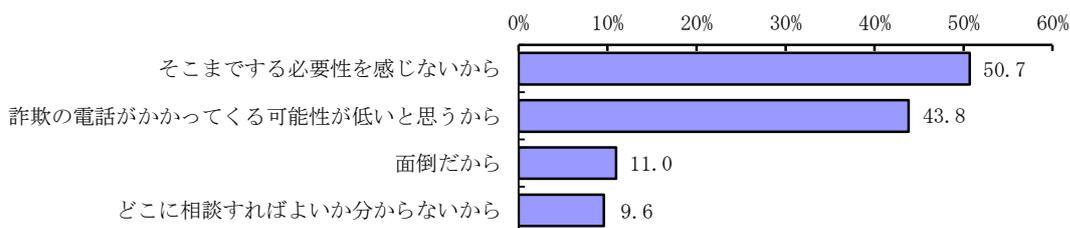
1. そこまでする必要を感じないから (だまされない自信があるなど)	50.7	7
2. 詐欺の電話がかかってくる可能性が低いと思うから	43.8	8
3. 面倒だから	11.0	0
4. どこに相談すればよいか分からないから	9.6	6
12 わからない	3.9	9

被害防止対策で行ってみたいもの、あるいは既に行っているものを聞いたところ、「新聞やテレビなどから最新の詐欺の手口に関する情報を入手」と答えた人の割合(47.1%)が最も多く、「ナンバーディスプレイ（電話番号表示）機能の活用」(45.2%)、「非通知電話拒否の設定」(40.4%)、についてはそれぞれ4割以上となっており、次いで、「在宅時でも留守番電話の設定」(28.4%)、「自宅の電話番号を電話帳から削除」(28.2%)などの順になっている。



被害防止対策で行ってみたい、あるいは行っているものが「いずれもない」と答えた人の割合は、7.6%となっている。

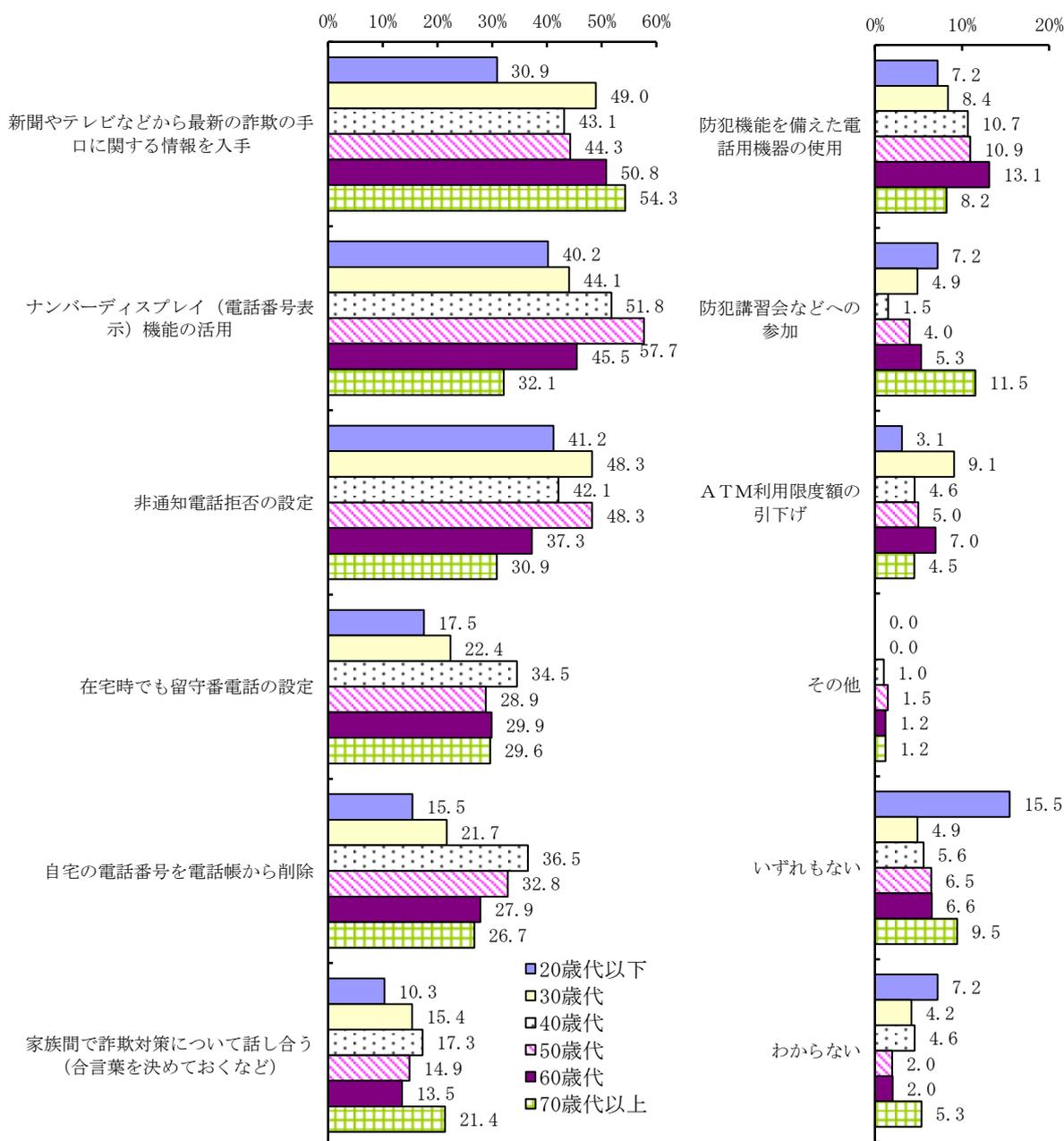
その理由をみると、「そこまでする必要を感じないから」が最も多く(50.7%)、「詐欺の電話がかかってくる可能性が低いと思うから」(43.8)、「面倒だから」(11.0%)、「どこに相談すればよいか分からないから」(9.6%)の順となっている。



【年齢別】

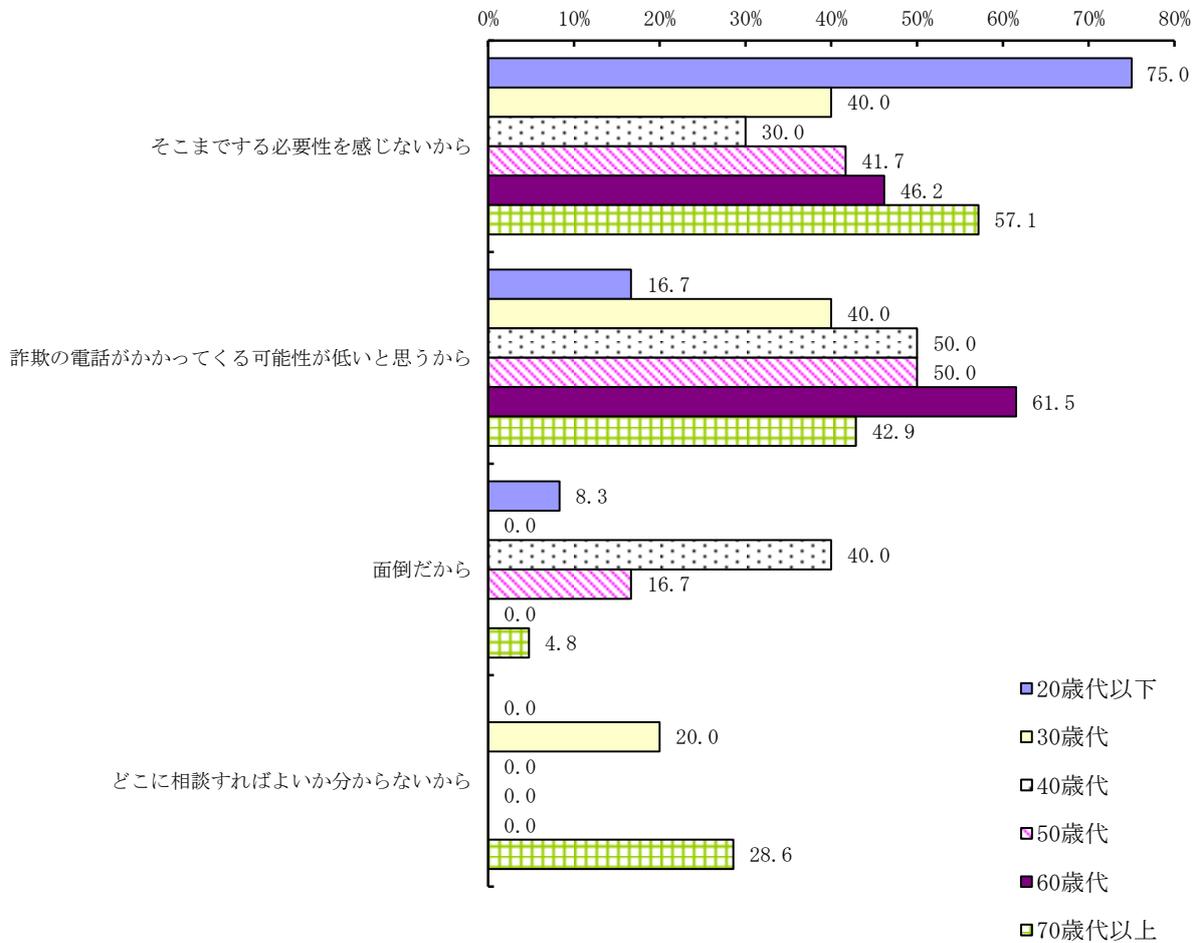
年齢別にみると、30歳代及び60歳代以上では「新聞やテレビなどから最新の詐欺の手口に関する情報を入手」、40歳代から50歳代では「ナンバーディスプレイ（電話番号表示）機能の活用」、20歳代以下では「非通知電話拒否の設定」と答えた人の割合がそれぞれ最も多くなっている。

また、70歳代以上では、「家族間で詐欺対策について話し合う」（21.4%）「防犯講習会などへの参加」（11.5%）の割合が他の年齢層に比べて多くなっている。



被害防止対策で行ってみたい、あるいは行っているものが「いずれもない」と答えた人の理由について、年齢別にみると、20歳代以下及び70歳代以上では「そこまでする必要を感じないから」が、40歳代から60歳代の年齢層では「詐欺の電話がかかってくる可能性が低いと思うから」が最も多く、30歳代では同率で多くなっている。

20歳代以下では「そこまでする必要を感じないから」が75.0%、60歳代では「詐欺の電話がかかってくる可能性が低いと思うから」が61.5%と他の年齢層と比較して特に多くなっている。また、70歳代以上では、「そこまでする必要を感じないから」が57.1%「詐欺の電話がかかってくる可能性が低いと思うから」が42.9%のほか、「どこに相談すればよいか分からないから」も28.6%と多くなっている。

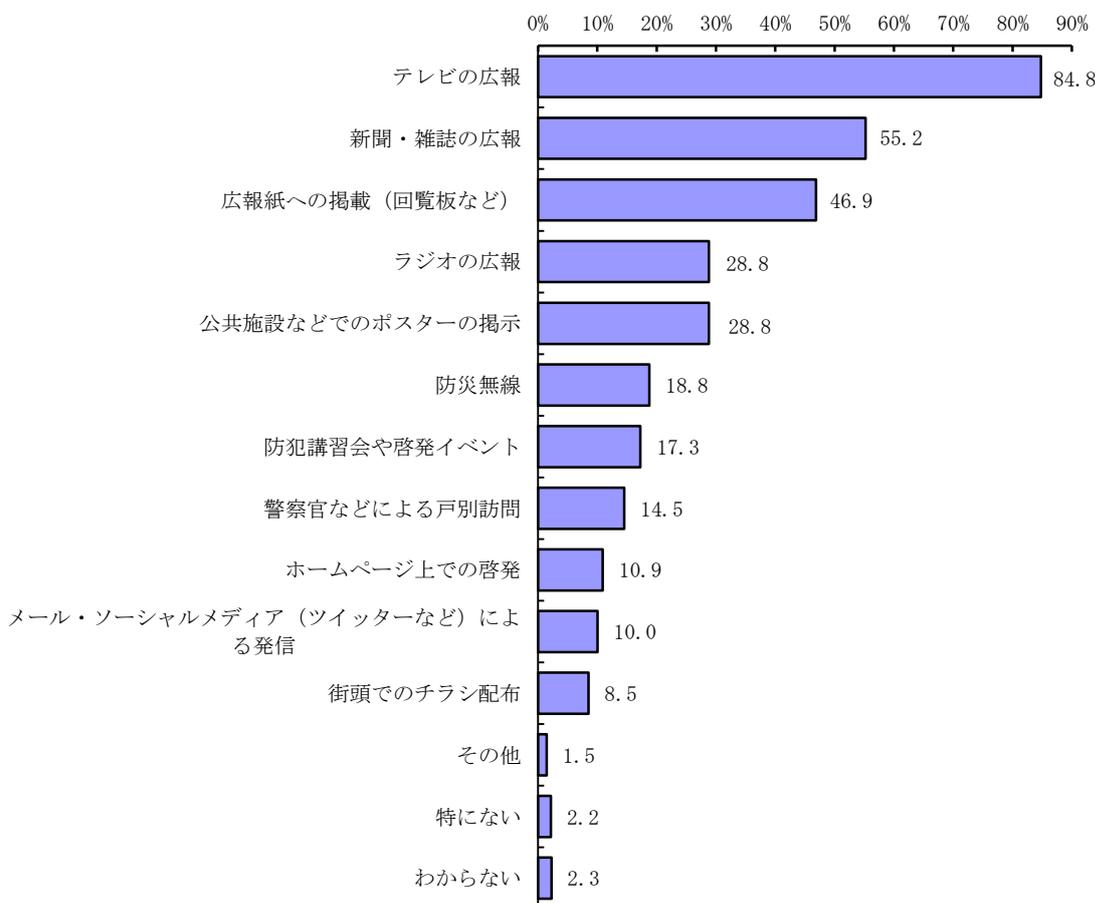


問37-2 特殊詐欺に関する情報提供の方法

あなたは、特殊詐欺に関する情報をどのように提供されたらよいと思いますか。次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

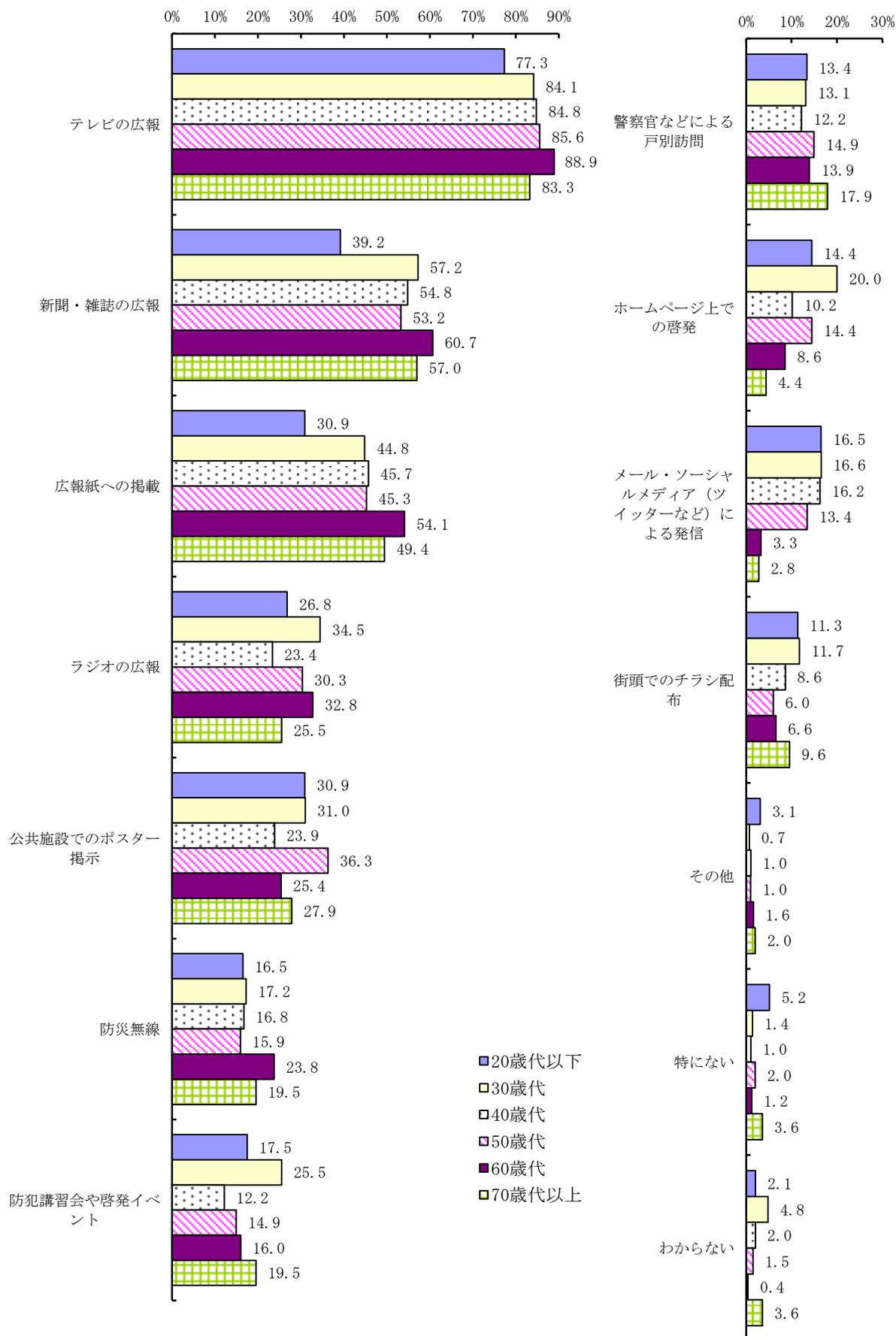
	(複数回答)	(%)
1 テレビの広報	84.8	8
2 ラジオの広報	28.8	8
3 新聞・雑誌の広報	55.2	2
4 広報紙への掲載(回覧板など)	46.9	9
5 公共施設などでのポスターの掲示	28.8	8
6 ホームページ上での啓発	10.9	9
7 警察官などによる戸別訪問	14.5	5
8 街頭でのチラシ配布	8.5	5
9 メール・ソーシャルメディア(ツイッターなど)による発信	10.0	0
10 防災無線	18.8	8
11 防犯講習会や啓発イベント	17.3	3
12 その他(具体的に)	1.5	5
13 特にない	2.2	2
14 わからない	2.3	3

特殊詐欺に関する情報をどのように提供されたらよいと思うか聞いたところ、「テレビの広報」と答えた人の割合(84.8%)が最も多く、次いで「新聞・雑誌の広報」(55.2%)、「広報紙への掲載」(46.9%)、「ラジオの広報」(28.8%)、「公共施設などでのポスターの掲示」(28.8%)、「防災無線」(18.8%)などの順になっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「テレビの広報」と答えた人の割合が最も多く、次いで「新聞・雑誌の広報」、「広報紙への掲載」の順になっている。
 また、「メール・ソーシャルメディアによる発信」の割合は、50歳代以下はいずれも15%前後であるのに対し、60歳代以上の年齢層では3%前後と低くなっている。



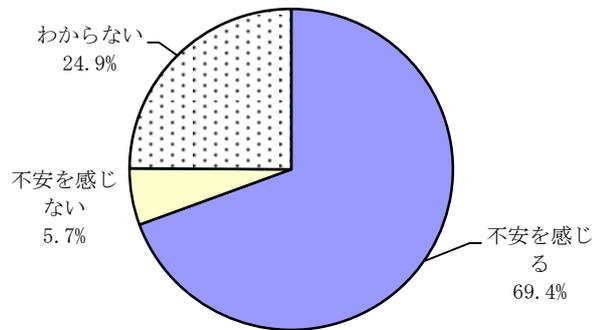
サイバー犯罪被害防止対策

問38 インターネット利用時のサイバー犯罪に対する不安

インターネット上では、個人情報の流出被害やウイルスによる被害などサイバー空間における脅威が増大していますが、あなたは、インターネットを利用するにあたり不安を感じますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 不安を感じる	69.4
2 不安を感じない	5.7
3 わからない	24.9

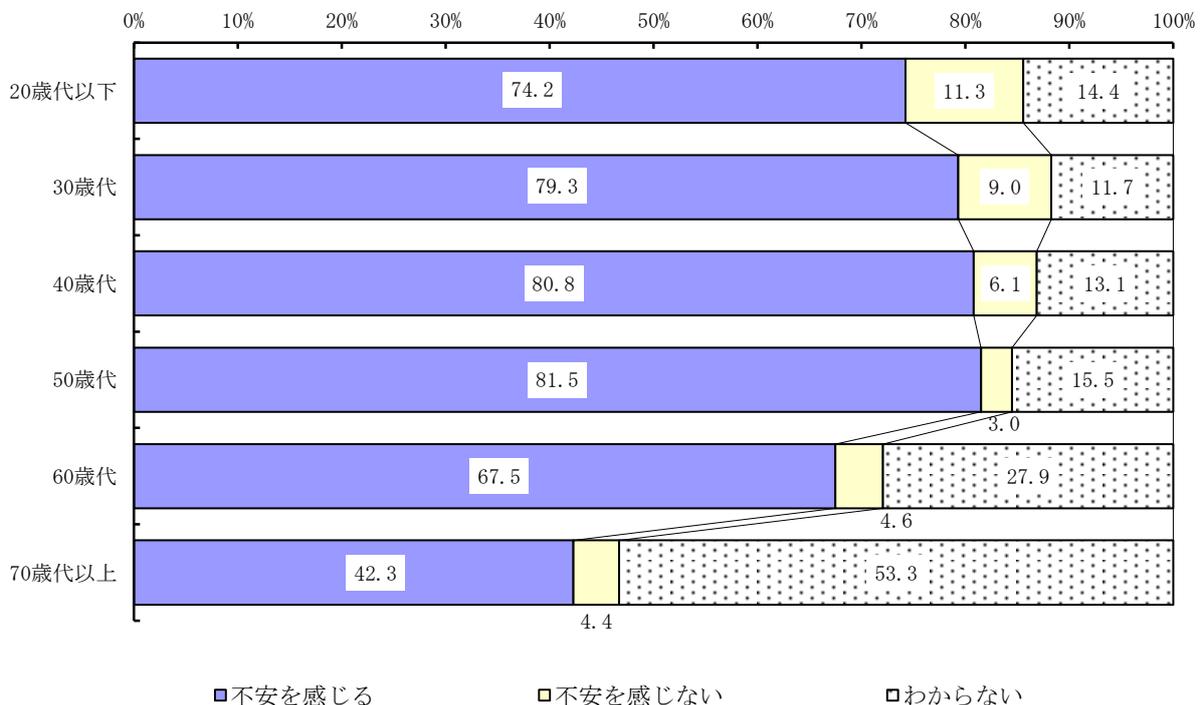
インターネットを利用するにあたり不安を感じるかどうか聞いたところ、「不安を感じる」と答えた人の割合が69.4%と最も多く、「不安を感じない」が5.7%、「わからない」が24.9%となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、70歳代以上を除く全ての年齢層で「不安を感じる」と答えた人の割合が多く、50歳代(81.5%)で最も多くなっている。

70歳代以上は、「わからない」と答えた人の割合が53.3%と最も多く、「不安を感じる」は42.3%となっている。また、60歳代も「わからない」の割合が27.9%と、比較的多くなっている。

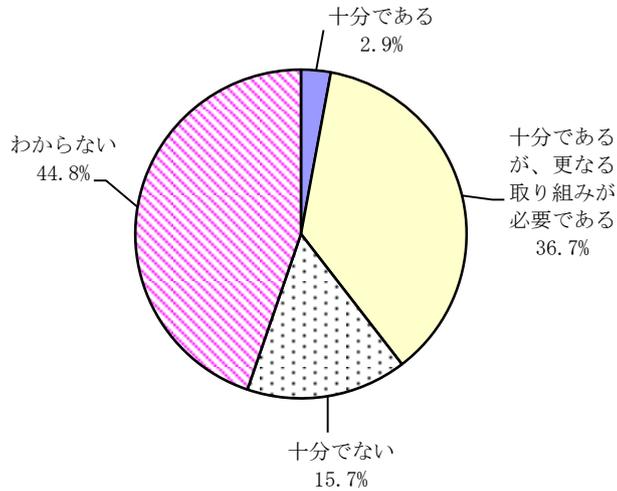


問38-1 県警におけるサイバー犯罪被害防止対策

県警では、不正アクセスや不正送金事犯等のサイバー犯罪に対する取締りの強化やサイバー防犯ボランティアの活性化、事業者との連携などのサイバー犯罪被害防止対策を推進していますが、あなたは、このような県警の取り組みについて、十分と思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 十分である	2.9
2 十分であるが、更なる取り組みが必要である	36.7
3 十分でない	15.7
4 わからない	44.8

サイバー犯罪被害防止対策を推進する県警の取り組みについて十分かどうか聞いたところ、「わからない」と答えた人の割合が44.8%と最も多く、「十分であるが、更なる取り組みが必要である」が36.7%、「十分でない」が15.7%の順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、40歳以上の年齢層で「わからない」と答えた人の割合が最も多く、特に、70歳代以上では、6割近く(58.1%)の人が「わからない」と答えている。

30歳代では「わからない」と「十分であるが、更なる取り組みが必要である」が同じ(39.0%)、20歳代以下では「十分であるが、更なる取り組みが必要である」が最も多く(47.9%)になっている。

